

ループリックが結ぶ教育接続(9):
学生と教師を結ぶアクティブ・ラーニングとループ
リック

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/43329

学生と教師を結ぶアクティブ・ラーニング

金沢大学 大学教育開発・支援センター准教授 杉森 公一

大学におけるアクティブ・ラーニング

平成二十四年八月中教審答申「新たな未来を築くための大学教育の質転換に向けて」で示された大学教育の質的転換への方向性では、ルーブリックとともにアクティブ・ラーニングの導入も求めている。ルーブリックが示す教育・学習の観点と到達の評価基準には、大学の存在理由を反映した三つのポリシー（入学者受け入れ、教育課程編成、学位授与の方針）の具体的な学習成果を表すツールとしての有効性がある。アクティブ・ラーニング型講義は質的転換を象徴する施策として、国公私立大学を問わず展開されている途上にあるものの、教育と学習がどこまで進んでいるかの教師と学習者の相互の省察的な経験こそが、学習成果を具現化しポリシーの実質化をかたむける。大学教育機関の質的転換を評価するツールとしても、学士課程の長期にわたるルーブリックを記述することは可能である。アクティブ・ラーニングとは、学生参加、PBL、協調・協同学習を含む、能動的活動

を促す講義法の総称として用いられる語である。能動性を重視した経験学習あるいは他者との協働による活動あるいはワークショップの源流をたどると、古くは、米国の教育思想家ジョン・デューイに行き当たる。彼の著書『民主主義と教育』の中では、熟慮（リフレクシオン）あるいは、熟慮的な（リフレクティブ）経験として現れている。ごく最近では、能動的学習活動の時間と質を最大化する試みとしての反転学習（フリップ・ラーニング）、反転授業（フリップ・ラーニング）への注目が高まっているところである。

アクティブ・ラーニングの実践

筆者の所属する大学教育開発・支援センターでは、今年度新規に「アクティブラーニング入門」を開講し、LMS（学習管理システム）を通じた事前課題・ショートビデオの提示、クリッカー（リモコン式意見集約装置）による事前課題の確認や双方向授業、協同学習やプロジェクト活動などのアクティブ・ラーニングを取り入れた試行授業を行った。受講生

週	テーマ	アクティブ・ラーニングの方法
二・三	ティーチングとラーニング	協調学習、クリッカー
四・六	クロニン人間について考える	事前課題、討論、クリッカー
七・九	科学・技術と社会	反転授業、協同学習、クリッカー
十・十一	プロジェクト学習	プロジェクト学習 (PBL)
十二	世界の大学 ヨーロッパ編	事前課題、討論、クリッカー
十三	大学評価	事前課題、討論、クリッカー
十四	課題探究実践	事前課題、プレゼンテーション
十五	総合討論	プレゼンテーション

表1 授業計画

表2に示すのは、第二・三週「ラーニングとティーチング」でのグループ活動およびレ

ポート課題のルーブリックである。科学教育と学習科学の視点から、学習者を主体（中心）にした教育・学習方法への転換が促されていることを知識として伝え、①大学でどのような学びのか ②自律的・能動的な学習を通して「問う力」「考える力」を得ることが出来る機会と環境にはどのようなものがあるか ③卒業後に社会参画する（実際の課題解決に応用する）ためにはどのような能力・コンピテンシーが重要と考えるか、三点に注目したグループワークと討論を行った。ルーブリックを用いて評価基準を示し一五週の途上で形成的評価を行うこと、すなわち省察を伴う学習経験そのものが主体的で能動的な学習となる。最終回として『学生フォーラム』学生の提案する理想の学び』として一般公開の成果発表・総合討論を実施したところである。授業への学生参加を促すことに注目するアクティブ・ラーニングは、学生の探究心と学究的な態度を深い地点まで涵養することになる。単位が取れればよいとするような浅い学習の対話にあたる、「深い学習」へ向かう方略でもある。学問分野や学部・学科の特徴と学生の学習状況を照らし合わせながら、導入の推進には組織的な支援が必要であり、教育実践を相互に共有する授業研究に軸を置いた実践的なFD活動が求められる。

学習観の質的転換の意義

実践を通して実感することは、扱う手法の転換を越え、教育者と学習者の学習への意識転換の意義である。教育工学者の沼野一男は『情報化社会と教師の仕事』（国土社、一九八

「能動的学び」レポートのルーブリック

評価基準	すばらしい(3)	もう少し(2)	もつと(1)
【知識・理解】 大学でどのようにして学ぶか、自分の言葉で主張できる。	大学での学びについて、講義の視点を踏まえて自分の言葉で論じている	講義の要約ができていますが、自分の主張が明確でない	講義内容を踏まえておらず、主張がない
【表現・思考】 問う力、考える力を得る機会と環境を述べている。	多面的な視点から、問う力と考える力を得る機会と環境について自分の考えを論じられた	機会と環境について、項目ごとに分けてまとめ、整理できている	項目が整理されていない
【理解・態度】 グループでの討論内容が反映されている。	グループ活動を通じて他者の考えを受容し、取り入れることについての気づきに触れた	グループ活動の感想が述べられた	グループ活動の感想が無く、自分自身の変化の気づきについて触れていない

表2 アクティブラーニング入門における「能動的学び」のルーブリック

六)で、教えない教育が学生の問う力を伸張することを示唆している。筆者は、これまで培われてきた教師の力・講義の力を信じているが、大学の持つ研究成果と教育内容、学習者の学びへの意欲を結びつける方策を模索し続けなくてはならないと考える。アクティブ・ラーニングが広がりつつある現在、ルーブリックは、教師から学生への期待を学習成果に結ぶための、効果的な方法として加わったのである。大学と教師の教育哲学の深化と、学習への注目による教師の脱中心化、さらにルーブリックによる教育と学習の過程の可視化の相乗によって、アクティブ・エデュケーションの実践が進むと考える。沼野一男の前掲書の冒頭から、学校や教師の役割に関する箇所を引用する。

子供たちのために学校や教師は何をしなくてはならないのか。この問いは、一人ひとりの教師がその教育観あるいは人間観に基づいて答えるべき問いである。しかし、その答は単なる理想や新年の表明であってはならない。少なくとも子供たちの学習指導に意欲を持ち、そのための努力を惜しまない多くの教師に、現実に期待できるものでなければならぬだろう。

ルーブリックには、教師の「教育観」「人間観」を伝える役割が備わっているのである。

ハ引用文献
デューイ、松野保男訳（一九七五）『民主主義と教育』（上）岩波文庫、二〇〇一・三三頁
沼野一男（一九八六）『情報化社会と教師の仕事』国土社、一頁